



オリーブ栽培者のための情報誌

九州オリーブ通信

Vol.5

トピックス①

2014年4月より苗木供給及び栽培技術指導をKOAと提携する VIVAI PIETRO PACINI社 社長 Mario Pacini 氏 初来日

2014年2月、一般社団法人九州オリーブ普及協会(KOA)の招きによりイタリア・トスカーナのオリーブ苗木保証協会の会長であり、トスカーナ最大級のオリーブ苗木会社「VIVAI PIETRO PACINI」の社長でもある Mario Pacini氏が初来日した。



▲Mario Pacini氏による記念講演。右は通訳の大西佳弥さん



▲Pacini氏講演に先立ちお礼を述べる百富理事長



▲オリーブ研究を発表する岸川明日香さん(九州大学大学院生)



▲講演に聞き入る方々。生産者をはじめ様々なオリーブの関係者が九州外からも参加された

九州オリーブ普及協会は2014年4月よりイタリア・トスカーナ最大級のオリーブ苗木会社 VIVAI PIETRO PACINIから健康で生産効率の良い苗木の輸入を開始。輸入に先立ち、去る2月に VIVAI PIETRO PACINI社の社長 Mario Pacini氏を招聘し、約1週間にわたり九州各地で講演や剪定指導を行った。2月2日には九州内外より多くの関係者の皆様にお集まりいただき、記念講演会及び歓迎パーティを開催した。記念講演に先立って、百富孝行理事長が挨拶、

岸川明日香さん(九州大学大学院生)からはオリーブの効能についての研究発表があり、その後、南アフリカ、中国、クロアチアなど世界各地のオリーブ事情を実見してきた Mario Pacini氏による貴重な内容の



▲▶ オリーブオイル試飲コーナーでのPacini氏と参加者の方々



▲日向市長(右端)への表敬訪問



▲えびのの市長(中央やや右)への表敬訪問



▲たくさんのご参加をいただいた懇親会風景



▲えびのの市長(左)へ苗木を寄贈するゴールド工業株式会社の村田賢太郎会長

話が展開された。質疑応答においては生産者の方々を中心に多方面にわたる質問があり、ひとつひとつ丁寧に回答していく形で活発な意見交換の場となった。

また、翌日からは急速に栽培が広がっている九州各地の自治体への表敬訪問や、これからのオリーブ事業に意欲を持って参加していただけるよう各生産地域で説

明会を行った。生産現場における育樹や剪定方法などの実技指導会にも多くの皆様にご参加をくださり、とても内容の濃い時間を持つこととなった。KOAは、参加された関係者の方々がここから少しでも本場イタリアの知識や技術を得て、それぞれに役立たせていかれることを祈念している。



Italian olives in Kyushu
イタリア産オリーブ in 九州

宮崎県

- 日向市 ●栽培者:日向市オリーブ研究会
- えびの市 ●栽培者:JAえびの市オリーブ研究会
- 木城町 ●栽培者:木城町オリーブ普及協議会
- 高鍋町 ●栽培者:たかなべ希望のまちづくり

産地化に向け2013年からオリーブのモデル農園が続々と誕生している宮崎県。木城町、高鍋町では行政の支援も始まった。



▲(写真左から時計回りに)木城町、えびの市、高鍋町のモデル農園。2013年5月、2014年4月、2014年3月にそれぞれ植樹

長崎県東彼杵郡川棚町

- 栽培者:清水美作、松本修
- 植樹時期:2014年2月

長崎県養蜂協会・協会長の清水さんと、仲間の松本さんの圃場は大村湾を見下ろす景勝地。将来が楽しみである。



▲山を切り開いてつくった段々畑に、500本を越すオリーブの樹が並ぶ



▲畑に道をつくるなど、植樹後も整備を進めている



▲日向市議会議員の溝口孝さんを中心に、2013年10月に完成したモデル農園

鹿児島県枕崎市

- 栽培者:深水清則
- 植樹時期:2013年10月

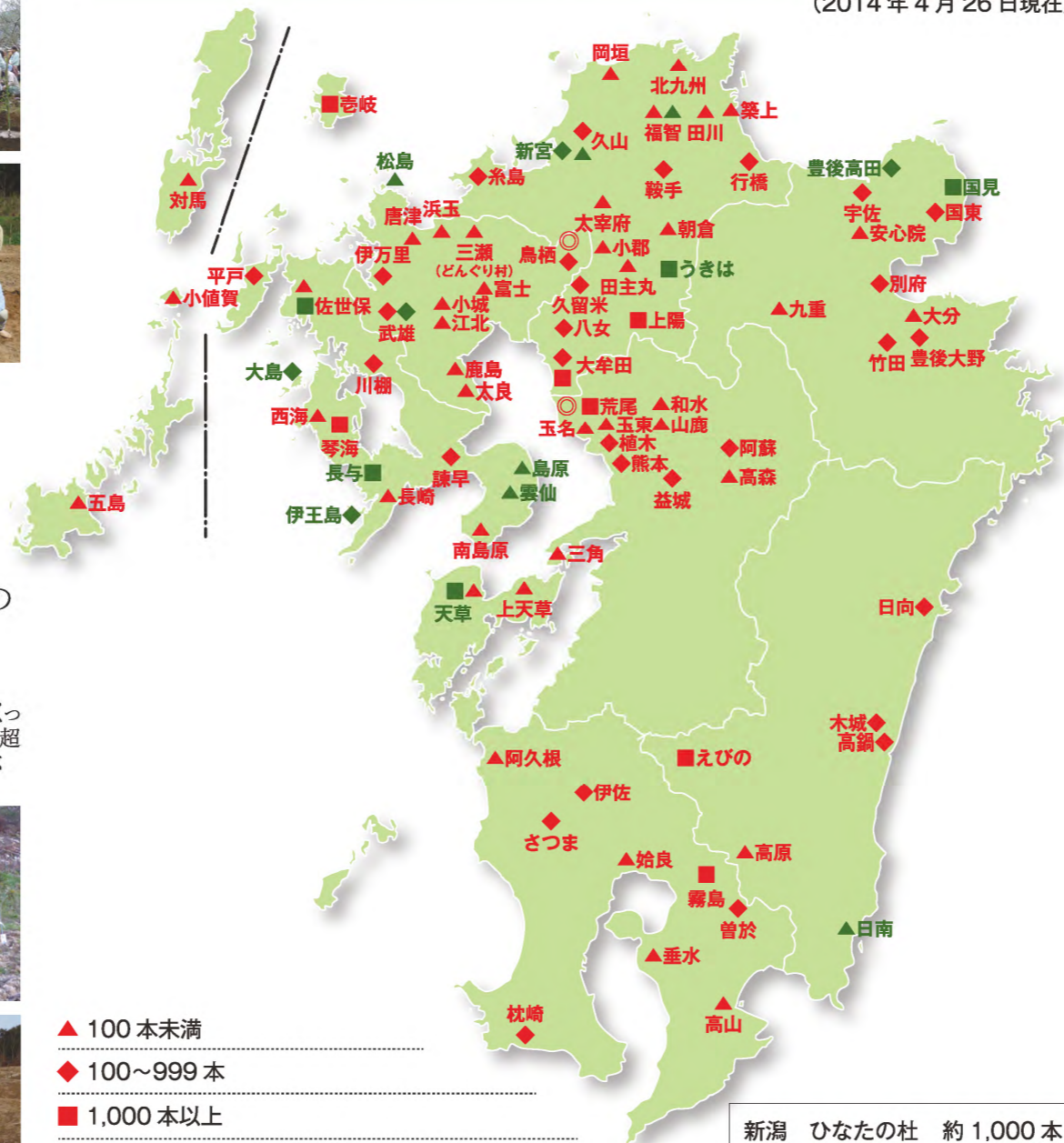
刃物、電動工具などの製造会社を営む深水さん。オリーブ栽培でますますお元気な毎日。左の写真は深水さんと奥様。



▲数カ所のオリーブ畑のほかに、広大な敷地では駝鳥や烏骨鶏も飼育している

九州オリーブ栽培マップ

(2014年4月26日現在)



- ▲ 100本未満
- ◆ 100~999本
- 1,000本以上
- ◎ KOA 育樹場 (佐賀県鳥栖市と熊本県荒尾市。約1万5,000本)

※大牟田は2カ所あり
赤文字はイタリア産、グリーン文字は国産オリーブ

新潟 ひなたの杜 約1,000本
関西地区・・・約600本
山口 周防大島・・・300本
神奈川 湘南・・・150本
青森 八戸・・・12本
茨城 東茨城・・・10本

熊本県熊本市

- 栽培者:くまもと北部KOAオリーブ研究会
- 植樹時期:2013年2月



▲この畑で栽培している川田裕治さん(中央)と、研究会会長の高濱三喜夫さん(右)

福岡県糸島市

- 栽培者:針貝武紀、蓑田昌治
- 植樹時期:2014年2、3月

まちづくりの仕事をしている針貝さん、森のエキスパートである蓑田さんの畑でいよいよオリーブ栽培が始まった。



▲蓑田さん(中央)は、「木の駅プロジェクト・森の健康診断 in 糸島」実行委員長を務める



▲「九州郷づくり共助ネットワーク研究会」会長の針貝さん



▲農業生産法人(株)糸島夢農園の富田則行代表

● KOAが取り扱うイタリア産オリーブ苗木のメリット ●

成木1本当たりの果実の収量と、オリーブオイルの抽出率

成長したイタリア産オリーブの樹1本から収穫できるオリーブの実の量は平均10kg、オリーブオイルの抽出率は平均15%です。日本産の平均はそれぞれ3kg、10%。大きな生産効率の差が出ると考えられます。

育成指導から実の買い取りまで、KOAの苗木はサポート付き

栽培講習会などで実がなるまでフォロー。実が採れたら、ご希望の量を KOAが相場価格で買い取ります。設備使用料のみで KOAグループ所有搾油機でオリーブオイルにすることもでき、加工・販売まで生産者の思いのまま。

KOAが取り扱う12品種のイタリア産オリーブ苗木



フранトイオ

●油用 ●油含有率 20~23%
地域対応性が高い。
良質のオイル分を含み香りも高い。



レッチーノ

●食用・油用 ●油含有率 17~22%
オイルは果実風味は少ないが
爽やかな味わいで美味。



タツジャスカ

●食用・油用 ●油含有率 23~26%
オイルの味に刺激を加えるのによく
用いられる。潮風に強い。



モライオロ

●油用 ●油含有率 18~24%
オイル分が多く、早く熟成する。
果実はやや小ぶりの短楕円形。



ペンドリーノ

●油用 ●油含有率 22~23%
オイルの風味は繊細で美味。
心地よい味わい。花粉が多い。



コラティーナ

●食用・油用 ●油含有率 21~26%
ポリフェノール含有率が高い。
果実の風味が強く、苦み辛みあり。



ピチョリーネ

●食用・油用 ●油含有率 18~20%
フランスの代表的品種。収量安定。
低温、乾燥に強い。受粉樹が必要。



サンタ・カテリーナ

●食用
テーブルオリーブ専用。大きな実が
採れる。比較的成長が早い。



マウリーノ

●油用 ●油含有率 20~21%
典型的なトスカナオイルの栽培
品種。花粉が多い。



ノチェッラーラ・デル・ベリーチェ

●食用・油用 ●油含有率 18~22%
食用とすることが多いがオイルは
香り高く、果実味もコクもある。



コレッジョラ

●油用 ●油含有率 15~18%
オイルの風味は上品で
草木のような香りがある。



レッチョ・デル・コルノ

●油用 ●油含有率 19%
オイルはやや果実味があり良質。少し刺激
あり。寒さ、病気、害虫、乾燥に強い。

※油含有率はVIVAI PIETRO PACINI社(イタリア)資料による

エクストラバージンオリーブオイル

お問い合わせ先
長与オリーブ園
(電話)095-883-5418



原料は、長崎県西彼杵郡長与町の進藤昭子さん生産の農薬不使用オリーブ



九州各地のオリーブをブレンドした KOAオリジナルのオリーブオイル

完売



企画・販売は荒尾市オリーブ生産組合。オイルの量り売りも好評で完売した

オリーブのオイル漬け



九州産オリーブ緑果のエクストラバージンオリーブオイル漬け。実とオイルを同時に楽しめる

こちらはペペロンチーノ風味。そのまま酒のつまみにもってこい。パスタの具としても重宝



オリーブの新漬け

完売



収穫したての緑色の果実を塩水に漬けたもの。若々しいオリーブの風味と、カリッとした食感が人気

本格的な収穫が始まった九州産オリーブの関連商品の開発、加工、販売が進んでいる。九州におけるオリーブ栽培の草分けで KOAオリジナルオイルの原料供給者の一つでもある福岡県のうきはオリーブ部会も2014年から弊協会にご入会いただいております。生産後に向けた九州各地と KOAとの連携が強化中である。

● 上に注記のない商品のご注文、お問い合わせは株式会社オリーブジャパンまで ●

TEL 092-726-8015 FAX 092-791-3800 eメール <http://olive-japan.net/contact.php>



▲「みなさま、はじめまして! このたび一般社団法人「日本オリーブ普及協会(NOA)」の東京本部を担当します梅沢元彦と申します。オリーブの持つ大きな可能性とともに、オリーブの力で日本をもっと元気にハッピーにしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします」

住所：東京都中央区銀座 5-14-8 銀座ワカホビル 5F
TEL：03-6226-5444 FAX：03-5550-8682

2014年1月8日、一般社団法人「日本オリーブ普及協会(NOA)」が設立された。九州外でも加速するオリーブ栽培事業の動きを受け誕生したNOAは、今後、KOAと連携して日本全国をサポートしていく。東京本部長に就任した梅沢元彦氏はITのプロ集団が集う企業の代表取締役社長も務める。

一般社団法人 九州オリーブ普及協会(KOA) 本部が移転

KOA本部は2013年8月1日に、下記住所へ移転しました。

〒810-0044 福岡県福岡市
中央区六本松2-13-5
六本松クロスビル4F

*電話・FAX番号、Eメールアドレスは
以前と同じです

清水章生さん(写真。KOA研究会員)
の手作りの看板が皆さまを迎えます



特集

唐津発 コスメとオリーブ

フランスの化粧品産業集積地・コスメティックバレーと連携して、唐津市、玄海町を中心とした佐賀県内ひいては北部九州一帯に、アジア向けの化粧品製造拠点づくりを目指す唐津コスメティック構想。その化粧品の原料の一



▲株式会社ブルーム(唐津市)は化粧品の成分分析から輸入代行まで手がける企業で、JCCの中心メンバーの一つである

つとして、人体への有益な効果を持つオリーブの残渣が注目されている。KOAは2014年4月、唐津コスメ産業の充実と発展を目指す連携組織 JCC(ジャパン・コスメティックセンター)に加盟し、原料の提供、製品の開発を進めていくこととなった。生産者をはじめとしたオリーブ関係者も今後の展開に期待を寄せている。

九州オリーブ通信 Vol.5 (2014年 4月30日発行)

発行者：百富孝行

発行所：一般社団法人九州オリーブ普及協会(KOA)

〒810-0044 福岡県福岡市中央区六本松2-13-5 六本松クロスビル4F

TEL: 092-738-9975 FAX: 092-738-9987

ホームページ: <http://kyushu-olive.or.jp/> eメール: support@kyushu-olive.or.jp